

JP133 四万十川中流域山林

(しまんとがわちゅうりゅういきさんりん)

高知県：四万十市、四万十町

位置	N 33° 14′ E 132° 51′
面積	16,000ha

環境構成【森林】

津野町不入山を源流とする四万十川が、流域数百の支流の流水を集め、蛇行を繰り返しながら、四万十市の河口に向かって流れる。四万十川流域の森林は、78%が民有林であり、68.5%が人工林、流域の国有林では98%が人工林になっている。年間降雨量は約 3,000 mm に達する。かつては薪炭林の山が放置され、シイ・カシを中心とする照葉樹林が多く、マツ林や一部ではモミ・ツガの林もある。河川では、キシツツジ、トサシモツケに代表される草木類が見られる。



写真提供：生態系トラスト協会

選定理由

A1 ヤイロチョウ

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

保全への脅威

- ・ 林道開設、各種公共事業
- ・ 狩猟
- ・ スギ・ヒノキ人工林の多い地域であり、今後、人工林の伐採が増加することが予想される。
- ・ 本 IBA サイトを含む高知県南西部は豪雨・急傾斜地域であり、小規模の斜面崩壊が比較的高頻度で発生する。
- ・ 本 IBA サイトを含む高知県南西部ではニホンジカの生息分布が拡大している。本サイト内ではまだシカによる植生改変は顕著ではないが、今後の増加が懸念される。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化

変わらない

- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：無
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
普通（70～90%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（生態系トラスト協会）
内容：ナショナルトラストによる土地の取得・管理
- ・ 環境教育活動：実施者（生態系トラスト協会）
内容：自然観察会の開催
- ・ モニタリング調査：実施者（高知県）
内容：高知県により、鳥獣保護区における鳥獣生息状況調査が実施されている。

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・ 生態系トラスト協会

見られる鳥

留鳥	フクロウ、ヤマセミ、カワセミ、オオアカゲラ、ヤマドリ、コジュケイ、キジバト、アオバト、コゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、カワガラス
夏鳥	オオルリ、アカショウビン、キビタキ、カッコウ、ジュウイチ、アオバズク、サンコウチョウ、ホトトギス、ツツドリ
冬鳥	オシドリ、クロジ、ビンズイ、ルリビタキ、アオジ、マガモ、カルガモ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ

※絶滅危惧種については保護上の観点から非公開とした。

関連団体・自治体・施設等

- ・ 日本野鳥の会 高知支部
- ・ (公社)生態系トラスト協会



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCo, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community